

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770301950		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム郡山日和田 1ユニット「てまり」		
所在地	福島県郡山市日和田町字財ノ木原15-4		
自己評価作成日	平成22年1月27日	評価結果市町村受理日	平成22年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20
訪問調査日	平成22年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の有する能力を見極め、ご自分で出来ることを奪わない支援を行っている。また、毎日の散歩を通して、風邪を引かない体作りや、下肢筋力の低下を防いでいる。その為、毎月の外出では、入居者様に行きたいところをお聞きし、ある程度の場所には問題なく外出することができている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 毎年、家族アンケートを基に改善計画及び報告書としてまとめており、また、家族懇親会を開催し、話し合いを持ち聴取した意見や要望等をサービスに反映させている。
 2. 日頃から管理者やホーム長が、職員からの意見や情報を聞き取りと共に、毎年職員アンケートを実施して、直接言えない意見や要望等も把握し、事業所の運営に取り入れている。
 3. 四季を通して散歩、外食、花見、買い物等への外出支援を積極的に実施し、気分転換やストレスの発散、体力の維持に努めている。
 4. 職員の利用者及び外来者に対する挨拶及び言葉遣いが良く、職員への接遇教育がしっかり行われていることが窺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	愛の家グループホームとしては以下の3点。1、その人らしい快適で穏やかなシルバーライフを実現します2、心をこめた親切なサービスに努め、その心を磨き続けます3、様々な機会を通じて地域の人々とのふれあいを大切にします。郡山日和田独自では、パーソンセンタードケアの実践。	法人としての理念を毎日唱和し職員間で共有されている。事業所としての理念は作成されているが、地域密着型サービスの役割を反映した表現がされておらず、職員間で共有もされていない。	全職員で地域密着型のサービスの役割を反映した理念となっているかどうか、また理念の共有方法と実践についても検討されたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	川坂町内会に参加し、回覧板を回していただいたり、次に回したりすることで、地域の方々と交流を図っている。夏祭りでは多数の地域住民の方に来ていただき、定例の行事開催でも、交流している。また、毎日の散歩でも挨拶を交わすなど交流に努めている。	町内会に加入するとともに、ボランティアを受け入れたり、事業所での夏祭り等を開催し多くの地域の方の参加が得られた。また、一斉清掃等への参加や毎日の散歩等、積極的に地域と関わるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会に参加し、認知症に関する近隣の相談事に対応する体制を整えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議では、各ユニットから、ご家族様代表を一人ずつお招きし、GHでの活動の報告や懸案事項について協議したことを伝えている。また、話し合いを行い、意見要望を集めている。	事業所からの事業内容等の報告をし、参加メンバーからの意見や要望を受け議論され、サービスの向上に活かされている。また外部評価結果についても意見を求めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の方に普段の様子を見て頂きながら、運営推進会議においても取り組みを報告している。	市派遣の介護サービス相談員や地域包括支援センター職員が運営推進会議の委員になっており、事業所の実情を伝えている。また、困った時等は行政へ相談しながら連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社全体で身体的拘束廃止要項を決定し、各フロアに掲示し、職員へ意識を反映している。止むを得ず身体拘束をする際も決定しているが、原則はしないことにしている。また、薬や言葉による拘束をしないことを会社独自に指針として掲げ、内部研修などで職員に周知している。	身体拘束廃止要綱を事業所内に掲示すると共に、内部研修を通して全職員の理解は得ている。不審者の侵入や利用者の付き添い無し外出事故防止の観点から、日中の散歩時以外は玄関の施錠がされている。	施錠することの弊害を、家族に説明し理解を得ると共に、どうしたら施錠せずに安全に過ごすことが出来るか、職員全員で検討しながら取り組んで欲しい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が研修を通して学ぶ機会を得ており、日常や申し送りのなかで職員に意識を伝達し、防止に努めている。また、内部研修で職員も学ぶ機会を設けており、意識を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度など、実際に利用されている入居者様を通し学ぶ機会を得ている。必要な方に対し活用できるようになっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、契約書及び重要事項説明書の説明を行い、随時解らない事、疑問に関しては、統括マネージャー・統括ホーム長と連携をとり回答し、同意の下ご入居頂いている。事務所に契約書類を掲示し、いつでも内容確認できるよう、配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、訴えが入居者様から気軽に出てくるような関係作りを日々心がけている。また、月に2回介護相談員による傾聴を依頼している。ご家族様には半年に一度アンケートを送付し、意見を頂戴している。他には、ご意見箱、要望等受付書の活用など、工夫している。	日頃の支援の中から、利用者、家族等の思いや意見を汲み取っている。また、家族アンケートを実施した結果を基に改善計画を作り、家族会を通して話し合いを持ちながら、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議を設け、スタッフアンケートも実施し、意見を吸い上げている。また、代表者も全国のホームを訪問し、スタッフと触れ合う機会を設けている。	職員会議や代表者の事業所訪問、さらには年1回実施している職員アンケートを通して、職員の意見や要望を聞いて、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研究発表、レシピコンテストなどの各種表彰制度があり、個々の努力に応える場が用意されている。更に、実績に応じた評価を行うための人事評価制度もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修からHL研修まで、役割に応じて内部研修を行い育成に努めている。外部研修も広く推奨している。また、各ユニットにULを配置し、現場では実践教育を行っている。年に2回以上個別面談の機会をつくり、目標達成のための現状改善方法等を助言している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通しての仲間作りの推奨、他施設に転職した方々との積極的なコミュニケーションで、情報交換をしている。また、夏祭りへの招待、化粧の講習会に入居者様と共に参加させてもらうなど、他施設との相互交流を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの導入前に関し、御家族様との面談や、本人様の思いを傾聴することで、生活背景の把握等、安心を確保する関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時等、ご家族様の困っている事の傾聴の他、今後の本人様の生活の方向性や現在のグループホームで出来る事などを話し合い、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様の介護力や本人様の状態に合わせて、グループホームだけにとらわれることなく、他のサービスの利用を検討できる旨の説明も行い、関係作りに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何事も共に行う事で、その方の力を最大限発揮して頂ける様日々働きかけている。職員の知らない歌を学んだり、炊事を一緒に行ったり、できる入居者様には散歩時に車椅子を押して頂く等、相互に学び支えあう関係に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあれば随時連絡を取り、関係を築くよう努めている。行事や外出の参加等、協力的に参加頂けるご家族様は増えてきており、共に支えていく関係は向上している。また、ご家族様との親睦会も開催している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月の外出は地元を選び、思い出話をするなど、本人様のなじみの場所を考慮している。面会者は誰でも来て良い事にし、今までのがんじみの関係を壊さないようにしている。	利用者は定期的に行きつけの美容室に出かけたり、家族とお墓参りに行ったり、友人や家族の訪問を受けたりと、これまで大切にしてきた関係を継続した生活をしている。また、年賀状を出し、友人や家族とのつながりが継続するよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の散歩や、月例行事などを通し、できることの把握に努めている。また、入居者様が顔を合わせる機会を多く設け、お互いがその力を発揮し合い、助け合いの行動が見られるようにまできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	止むを得ず退去される際などには、次の居住のフォローを行っている。その後の入居者様とご家族様の方向性に配慮し、退去時の支援をする事は、入居時に説明させて頂いている。また、いつでも入居者様の必要性がある時は、それに応じられるように心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話、コミュニケーション、カンファレンスから、入居者様のニーズの把握をしている。また、ご家族様から今までの生活背景を教えてもらい、出来るだけその人の希望に沿った暮らしを援助している。	日頃の支援の中で、利用者の思いや意向を聞き取り、家族から得たこれまでの生活歴の情報を加味して、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、入居者様、ご家族様と十分な話し合いの場を設け、今までの生活歴、入居の経緯など、話し合っている。また、他の施設利用があった場合は、先方との情報共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察の経過を記録を残し、職員同士で情報共有している。また、全体の申し送りを1日2回行う事で、全入居者様の24時間の状態把握が出来るよう心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスではフロアのほぼ全員の職員が参加し、それぞれの意見が反映されるようにしている。また、期間を決めた介護計画と、その時々状況変化に応じた見直しも適時できるよう、態勢を整えている。	利用者一人ひとりの思いを聞き取っているが、思いが介護計画に活かされていない。また、介護計画に沿った支援内容毎の実施記録も十分されておらず、モニタリングの根拠が明確でない。	利用者の思いを基本に、課題点や目標を設定して欲しい。支援内容を実施した後の利用者の姿をイメージして短期目標をより具体的に設定することが大切である。また、介護計画に沿った支援は、実施記録を忘れずに記入することが必要である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の様子を介護記録に残し、申し送りをする事で、情報の共有を図っている。また、気付きシートを活用し、入居者様の細かい情報も共有している。それ以外にも、ケアの実施結果を日々チェックし、カンファレンスに活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者様やご家族様のその時々のご要望に対して、既存の考え方にとらわれない方法を随時話し合い、対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署などを通して、安全性の確保を支援している。その他、行事でボランティアの方に来て頂いたり、民生委員の方を通して TENT を借りるなど協力して頂いている。また、図書館の利用、外出時の野外炊飯など、ご入居者様の要望により、地域資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前より、かかりつけ医がいる場合はそのまま継続していただき、特にない場合は、地域の往診医を紹介している。	入居前からのかかりつけ医や、居宅療養管理指導による往診医により、適切な医療を受けられるよう支援している。受診結果は、家族と職員が情報を確認し合い共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、訪問看護師が来所し、普段の様子や体調不良の方の状態を見て頂いている。また、急病の際には、電話にて指示を仰ぎ、必要があればホームへ来て頂き、直接見て頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	南東北病院、ひわだ太田診療所と連携し、情報の共有を図り備えている。入院時は医療機関と情報を密にし、ご家族様とのやり取りを適宜行っている。また、お見舞いや千羽鶴を折るなど、職員が進んで行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	『重度化した場合における医療体制指針』において、文書にて公布している。また、ケアプランに看取りについてのご家族様の意向をお聞きし、記載している。それぞれのかかりつけ医とも話し合い、方針を共有している。	「重度化した場合における医療体制指針」を作成し、入居時に利用者・家族へ説明して同意を得ている。また、看取りが必要になった場合には「看取り介護にかかる指針」で説明し同意を得、医師や関係職員で話し合い、方針を共有しながら看取り支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応フローを電話の近くに掲示し、目を通すことで、スムーズに対応できるよう工夫している。また、実技を踏まえた研修を開き、緊急時や急変時に職員が慌てることのないよう、十分に知識を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	散歩時の地域の方々への挨拶、行事でのふれ合いを通して、ホームへの理解を働きかけている。また、夜間想定避難訓練や毎月1回、自主防災訓練も実施している。また、町内会に参加し、非常時連絡網の体制や避難場所も確保している。	年2回消防計画に基づく訓練と、毎月ユニット毎に火災と地震を想定した自主訓練を実施している。しかし、経験の長い職員の中には、夜間想定訓練の体験がない職員がいる。なお、非常用品は備えられ、地域と有事の際の避難場所の提供、炊き出し等が約束されている。	建物が3階建てであることから、有事の際職員が利用者を安全に避難させることが出来よう、各階の連携をシミュレーションしながら訓練をして欲しい。また、全職員が夜間想定訓練を体験して欲しい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの今までの生活背景を考慮し、入居者様が気を悪くされないような声掛けや対応をさりげなく行っている。また、居室はあくまで個人の空間と考え、必ず一声かけてから入室するなど、プライバシーに配慮している。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りを損ねないよう丁寧な言葉掛けや、居室入室時のノックや声掛けをしている。職員間では、使ってはならない言葉等も確認し合いながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎月の外出時、行事を通し、入居者様の要望に応え、食事を選んでもらったり、行きたい場所を言ってもらったりしている。また、希望する入居者様には、出来る範囲で、掃除や家事を手伝ってもらうよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には入居者様のペースに合わせて過ごしていただいている。入浴なども、入居者様より希望があれば、時間外にも対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望される方には、ホーム外の理容に出かけられるように、ご家族様と連携を取っている。また、『綺麗になりたい。』と希望される方には、化粧用具を揃え、一緒に行くなど、日常的な化粧の支援も行えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	入居者様の好みに応じた食事作りを心がけている。その人の発揮できる力に応じて、買出し、調理、盛り付けや配膳を職員と一緒に、全員で同じテーブル、同じ食事をとることで、楽しく食事できるよう努めている。	買い物、調理、食事、後片付け等、利用者一人ひとりの力を活かしながら、職員と一緒にっており、食事が楽しみになるよう支援をしている。また、嗜好等の把握のため、残滓調査、アンケート調査を実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が栄養バランスを考え、献立を考えている。また毎食後、職員が各入居者様の摂取量を確認している。入居者様の状態によっては、キザミ食等、代替品をお出しするなど、個別の対応も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している入居者様には声かけにて行って頂き、難しい方は出来る所を行って頂き、その人の力を活用しながらケアにあたっている。また、往診歯科医師との協力態勢も作っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易なおむつやリハビリパンツの使用は避け、個人の排泄パターン、習慣を活かして適時排泄誘導などを行い支援している。	排泄チェック表により、一人ひとりの排泄パターンを把握し、その人に応じた声掛けや誘導を行い、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の散歩で体を動かして頂いたり、水分補給をまめに頂くことを勧めている。水分摂取の少ない方は、ヤクルトやヨーグルトなどを提供し、対応している。また、往診の医師への相談を適宜行い、服薬の検討もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入りたい日や時間帯は、基本的には入居者様に決めてもらっている。入浴中も、ご自分でできることは行って頂けるように支援したり、好きな歌と一緒に歌ったりと、楽しく過ごせる空間を工夫している。夜間は、希望があれば職員の配置を留意した上で、対応している。	利用者一人ひとりの希望を聞き、身体状況に合わせた入浴支援をしている。入浴剤や湯船に花等を浮かべ楽しみながらの入浴となるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の良眠のため、なるべく日中は活動してもらえよう、散歩の支援やレクなどを提供している。また、就寝時間や起床時間に決まりはなく、その人の状況に応じて、臨機応変に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更、追加がある場合は、その都度職員間で伝達している。また、薬箱や介護記録に処方箋を添付し、職員が薬についての情報を常に得られるよう、環境を整備している。また、薬に関するテストなどを行い、スタッフに薬の重要性、必要な知識を学ぶ機会なども設けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中で、その方の能力に応じた役割を一人ずつ持って生活して頂けるように支援し、実施している。また、昔馴染みの歌が好きな方が多い為、スタッフも一緒に覚え歌ったり、歌の本と一緒に作成するなど、楽しみ、気晴らしの支援も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩や調理の買出しを通して、外に出て頂く機会を設け、その人の必要物品があれば一緒に買い物に行くなど工夫している。また、毎月の外出先は、できるだけ地元を選んでいる。思い出話ができるようななじみの場所の提供を心がけ、そういった場所の把握も、ご家族様の面会時に相互に話し合うようにしている。	日常的には、毎日の散歩・買い物等の外出支援をしている。事業所（全体・ユニット毎）で、外食・花見・近隣広場でのバーベキュー・温泉地での足湯等を実施しており、家族の付き添いで墓参、理美容等の外出支援もされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月1回の外出の際は、お小遣いを持参頂いている。自販機でジュースを購入して頂いたり、食事代を自ら支払ったりなど、出来る範囲でお金を使って頂いている。また、調理の買出しの際にも、できる範囲で支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話機は自由に使用できるように設置している。また、できる方は、毎月のお手紙の中にご本人様の自筆メッセージを同封している。入居者様ご自身がご自宅に電話しご家族様に頼みごとをされることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明の明るさは、外からの光の具合を考え、調節している。また、カーテンの色も際立つ色は避け、落ち着いた色にしている。職員は、騒がしくしたり、むやみに大きな音を出さないよう配慮している。また、季節に合った装飾物を入居者様と作成し、季節感を出している。	行き止まり廊下のスペースを利用したコーナー椅子の設置やテーブル椅子、ソファ等の配置により、利用者はその日の気分で自分の居場所を選ぶことが出来る。また、利用者の作品や行事等の写真を飾り、居心地よく過ごせるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	カーテンなど居室間をさえぎるものは避けている。居室はプライベートな空間と意識し、一人になれる環境を提供している。また、玄関先や廊下奥へのイスの配置、テーブルを分けるなど、気の合う者同士、気軽に利用して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	入居時には、よく使用されていた座椅子など馴染みの深い家具、大切にしていた写真、思い出深いものを持ってきて頂くよう、ご家族様、入居者様に説明し、今までの生活環境を継続できるよう配慮している。	使い慣れたテレビ・タンス・コタツ等を持ち込み、写真や自作の作品等を飾り、自分の住まいらしく生活感のある部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室などの扉の前には、混乱や失敗を最小限にするように、入居者様の目の高さに合わせて分かりやすい表示で案内板を掲げている。居室前にはのれんをかけ、視覚的にすぐ自分の居室である、と認識できるように工夫している。		